



# 系統連系申請参考記入例

## (北海道電力様向け)

系統連系申請参考資料には、申請書に記入頂く参考記入例が入っています。  
参考記入例の電力申請資料は、お取寄せ頂いた電力申請資料と書式が異なる場合がありますが同様の記入項目に記入例を基に記入ください。  
また申請に必要な付帯資料は当サイト内の資料をご活用ください。  
**系統連系申請書類につきましては電力会社様より  
申請者の方が必ず原本を入手頂きますようお願い致します。**

# **系統連系申請書類 記入参考例**

申込日 平成 年 月 日

低圧太陽光発電設備 系統連系・電力購入 申込書

貴社電力系統と以下の発電設備との連系および太陽光発電設備からの発電電力の販売について、「太陽光発電設備設置にともなう系統連系および電力購入に関する契約要綱（以下「受給契約要綱」）」を承諾のうえ、以下のとおり申し込みます。

申込者氏名 (契約名称)	印
電話番号	
申込種別	<input type="checkbox"/> 新規 (○系統連系・電力購入 ○電力購入のみ)、(○新規設置 ○既存設備増設) <input type="checkbox"/> 設備変更 (○モジュールの増減 ○インバータの増減 ○その他( ) )

家庭用では、必要ありません。  
50kWを越える場合に必要となります。

設備ID	配線方法	<input type="checkbox"/> 剰余型配線 <input type="checkbox"/> 全量型配線
発電機設置場所		
発電機所有者住所		
業種・用途	<input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 住宅兼店舗 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 農林業 <input type="checkbox"/> その他( )	
電気需給契約	<input type="checkbox"/> 定額電灯 <input type="checkbox"/> 従量電灯 <input type="checkbox"/> ドリーム8 <input type="checkbox"/> 低圧電力 <input type="checkbox"/> その他( )	契約容量 (W・VA・A・kVA・kW)

電気方式	供給電圧	<input type="checkbox"/> 単相2線式 <input type="checkbox"/> 単相3線式 <input type="checkbox"/> 3相3線式 <input type="checkbox"/> 100/200V <input type="checkbox"/> その他( )
連系(受給)開始希望日	平成 年 月 日	

申込発電設備	太陽光発電	
モジュール出力	【変更前】 モジュールの枚数に、公称最大出力 * * * W の値を掛けてください。 例 H I T 2 4 4 α が 1 8 枚の場合 1 8 枚 × 2 4 4 W = 4 , 3 9 2 W	
インバータ出力	kW	
技術要件	逆流あり <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
自立運転	あり	
購入契約	あり	

※併設する発電設備からの逆潮流がある場合は本申込書の対象外となります。

【申込み手続きに関する委任の意思表示】

申込み手続きに関する以下の項目について、☐下記の者に委任いたします ☐委任いたしません

委任項目	(委任先1) 住所
<input type="checkbox"/> 本申込手続きに關わる連絡先	
<input type="checkbox"/> 工事費負担金の請求	会社名・氏名
<input type="checkbox"/> 各契約書類の受け取り	電話番号
<input type="checkbox"/> 本申込手続きに關わる連絡先	(委任先2) 住所
<input type="checkbox"/> 工事費負担金の請求	会社名・氏名
<input type="checkbox"/> 各契約書類の受け取り	電話番号

【申込みにおける同意事項】

以下のいずれかに該当する場合には、本申込みは撤回するものとし、本申込みに基づく貴社との接続契約が既に成立している場合であっても、当該接続契約が貴社によって解除されることに同意します。

○電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法（以下「再エネ特措法」という。）第6条に基づき経済産業大臣から受けた設備認定の効力が失われた場合

○貴社が電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法施行規則第4条または第6条に定める「正当な理由」のいずれかに該当すると判断した場合

○貴社が受給契約要綱に基づき算定した発電設備の系統連系に必要な費用を、貴社の定める支払期日までに支払わない場合

○「連系（受給）開始希望日」を経過してもなお電気の供給を開始しない場合（ただし、特段の理由があると貴社が認めた場合を除く）

また、本申込みに関して、以下の点についても、併せて同意します。

○本申込みに基づく貴社の連系連系検討後、貴社が発行する「太陽光発電電力受給契約確認書」により、接続契約および特定契約が成立すること

○貴社に支払う工事費負担金は、工事完了後に過不足精算を行なうこと

○本申込みを撤回した場合、本申込みの内容の検討に要した費用等を貴社に支払うこと

【その他注意事項】

○太陽光発電に加え他の発電設備を併設する場合、別紙「太陽光発電設備とその他発電設備を併設する場合」を提出いただきます。

○本申込みにより連系に關わる技術検討を行います。なお、状況により検討には3ヶ月程度要する場合があります。

【添付資料】

・設備認定通知書(写) ・電気使用申込書 ・電気工事届 ・位置図 ・機器配置図	・単線結線図 ・発電設備に關する資料 ・設備設置確認書(一式) ・連絡先(連絡体制) ・振込依頼書	パワーコンディショナーの標準仕様書添付願います。 単線結線図は、現地で作成願います。 連絡先(連絡体制)は、販売店様をご記入ください。
---	---	---

【北海道電力記入欄】

受付日時	受付担当者
平成 年 月 日	
時 分	

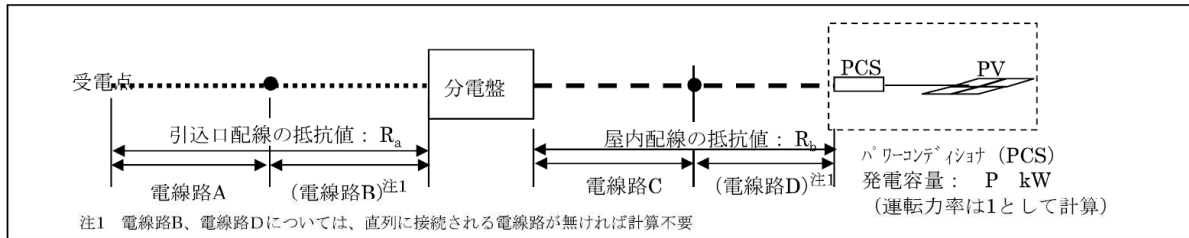
(別紙)

北海道電力株式会社

## 屋内配線（受電点からPCSまで）の電圧上昇値の簡易計算書

箇所を入力することで自動計算  
手計算の場合は白紙を印刷し使用

お客さま名：  
工事施工業者：



### ■ 受電点からPCSまでの電圧上昇値の計算

電圧上昇計算式  $\Delta V = K \times \text{発電電流 } I_g \times (\text{引込口配線の抵抗値 } R_a + \text{屋内配線の抵抗値 } R_b)$

(1) K

電気方式 **単相3線式100/200V**

K = **1** ...①

電気方式	K
単相2線式100V	2
単相2線式200V	2
単相3線式100/200V	1 ※1
三相3線式200V	$\sqrt{3}$

※1 電圧線と中性線との電圧を求めるため1としている。

(2) 発電電流  $I_g$

発電容量 P  kW

モジュール出力、インバーター  
出力のいずれか小さい方を  
入力ください

発電電流  $I_g = \frac{\text{発電容量 } P(\text{kW}) \times 1,000}{\text{発電電圧 } V(\text{V})} = \text{  } \text{ A} \dots \text{②}$

電気方式	発電電圧 V
単相2線式100V	105
単相2線式200V	210
単相3線式100/200V	210
三相3線式200V	$\sqrt{3} \times 210$

(3) 引込口配線の抵抗値  $R_a$  と屋内配線の抵抗値  $R_b$

引込口配線の抵抗値:  $R_a$  .....

屋内配線の抵抗値:  $R_b$  - - -

	電線路A	電線路B
電線太さ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
インピーダンス ( $\Omega/\text{km}$ ) (1)	<input type="text"/>	(4) <input type="text"/>
互長 (m)	(2) <input type="text"/>	(5) <input type="text"/>
抵抗値 ( $\Omega$ )	(3) <input type="text"/>	(6) <input type="text"/>
抵抗値(3)=(1)×(2)/1,000 (6)=(4)×(5)/1,000		

	電線路C	電線路D
電線太さ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
インピーダンス ( $\Omega/\text{km}$ ) (7)	<input type="text"/>	(10) <input type="text"/>
互長 (m)	(8) <input type="text"/>	(11) <input type="text"/>
抵抗値 ( $\Omega$ )	(9) <input type="text"/>	(12) <input type="text"/>
抵抗値(9)=(7)×(8)/1,000 (12)=(10)×(11)/1,000		

引込口配線の抵抗値  $R_a$ : (3)+(6)=   $\Omega$ ...③

屋内配線の抵抗値  $R_b$ : (9)+(12)=   $\Omega$ ...④

(4) 電圧上昇値 ( $\Delta V$ ) の計算

電圧上昇値  $\Delta V = K(\text{①}) \times \text{発電電流 } I_g(\text{②}) \times [\text{引込口配線の抵抗値 } R_a(\text{③}) + \text{屋内配線の抵抗値 } R_b(\text{④})]$

受電点からPCSまでの電圧上昇値

(判定結果)

FALSE

※ 電圧上昇値が標準電圧の2%を超えている場合、電線太さ・互長の見直しをお願いします。

現地の配線を実測して、入力ください。  
判定結果に従い、電線太さ、長さの見直しが必要な場合があります。

電線インピーダンス (抵抗)  
引込口配線・屋内配線 (軟銅)

線種	( $\Omega/\text{km}$ )
2.0mm	5.650
2.6mm	3.350
3.2mm	2.210
5.5sq	3.330
8sq	2.310
14sq	1.300
22sq	0.824
38sq	0.487
60sq	0.303
100sq	0.180
150sq	0.118
200sq	0.092
250sq	0.072

電線要覧 JIS C3307・1980に基づく